

『太平經鈔』卷三（七葉表二行〜八葉表三行）

ソウル大學 金志玪

〔原文〕

夫皇天署職、不奪其心、各從其類、不誤也。反之、爲大害。故〔置署〕〔署置〕（一）天之凡民、皆當順此。古者聖人、深承知此、不失天意（二）、得天心也。言九人各易治而得天心、九炁合和、故能致太平也（三）。此九事迭相（成生）〔生成〕（四）、一炁不和（五）、輒有不至者。元炁不和、無形神人不來至。天炁不和、大神人不來至。地炁不和、真人不來至。四時不和、仙人不來至。五行不和、大道人不來至。陰陽不和、聖人不來至（六）。萬物不和、凡民亂。貨財少、奴婢逃亡。凡事失職（七）、爲害若此。

〔校勘〕經…太平經卷四二・丙部之八・九天消先王災法

（一）置署…經作「署置」、從此改之。

（二）不失天意…經作「故不失天意」。

（三）言九人至致太平也…經作「治得天心意、使此九氣合和、九人共心、故能致上皇太平也」。

（四）此九事迭相成生…經作「此九事迺更迭相生成也」、從此改「成生」爲「生成」。

（五）炁…經作「氣」、以下皆同。

（六）聖人不來至…經、此後有「文字言不眞、大賢人不來至」之句。

（七）失職…經作「失其職」。

〔訓讀〕

夫れ皇天 職を署するは、其の心を奪わず、各おの其の類に従い、誤らざるなり。之に反すれば、大害を爲す。故に天の凡民に署置すること、皆な當に此に順うべし。古者の聖人、深く此を承知し、天意を失わず、天心を得るなり。

言うところは、九人各おの易治して天心を得れば、九炁合和し、故に能く太平を致すなり。此の九事迭ごも相い生成し、一炁和せざれば、輒ち至らざる者有り。元炁和せざれば、無形の神人來至せず。天炁和せざれば、大神人來至せず。地炁和せざれば、真人來至せず。四時和せざれば、仙人來至せず。五行和せざれば、大道人來至せず。陰陽和せざれば、聖人來至せず。萬物和せざれば、凡民亂る。貨財少なければ、奴婢逃亡す。凡事職に失すれば、害を爲すこと此の若し。

〔譯〕

皇天が（このように）職を割りあたえたのは、それぞれの意に沿わないことをせず、各々持ち前にあった（仕事をさせた）ので、誤りが無い。（このように定められた）職分に違反すれば、大きな弊害を生み出す。だから（地上の聖人や王者が）皇天の目下にあるすべての民に職をあたえることも、すべてこれに従うべきである。古代の聖人はこのことを深く理解し、（地上の世界における職分を定める際に）皇天の意を失わず、天下の心を得たのである。

これは、九種の人がそれぞれよく治めて天の心を得れば、九炁が和合しあうことになるので、大平をもたらすことができることを言っている。九種の（人の治める）事は相互に生成しあうので、もし一炁でもそれとしてあるべき調和を保たなければ、それに該當する神人は到來しなくなる。元氣が調和しなければ、無形の神人は到來しない。天氣が調和しなければ、大神人は到來しない。地氣が調和しなければ、真人は到來しない。四時が調和しなければ、仙人は到來しない。五行が調和しなければ、大道人は到來しない。陰陽が調和しなければ、聖人は到來し

ない。萬物が調和しなければ、凡民は亂れる。貨財が少なければ、奴婢は逃亡する。すべての事において各自の職分に失すれば、(全體にもたらす)弊害はこのありさまである。

〔語註〕

○署職

『太平經』卷四八(道藏一一〇一・三家本二四・四二一中)「其仕之云何、各問其才能所長、以筋力所及、署其職」。『太平經』卷五十四(道藏一一〇一・二四・四三八下)「故古者大聖大賢將任人、必先試其所長何所短、而後署其職事、因而任之」。

『老君音誦誡經』(道藏七八五・一八・二二二中)「吾初立天師、授署道教治籙符契、豈有取人一錢之法乎。喻如生官署職、有財錢若干」。『玄都律文』(道藏一八八・三・四六二上)「立二十四治、署男職女職二十四職」。

○署置

『太平經』卷四八(道藏一一〇一・二四・四二一中)「故古聖賢欲得天心、重慎署置、皆得人心、故能稱天心也」。『風俗通義』過譽「司空潁川韓稜、少時爲郡主簿、太守興被風病、恍忽誤亂。稜陰扶輔其政、出入二年、署置教令無愆失」。

○凡民

『尚書』周書・康誥(注疏卷一四・二〇三下)「朕心朕德、惟乃知。凡民自得罪、寇攘姦宄、殺越人于貨」。孔傳「凡民用得罪、爲寇盜・攘竊・姦宄、殺人顛越人、於是以取貨利」。音義「攘如羊反、宄音軌」。

○不奪其心

『太平經』卷九八(道藏一一〇一・二四・五一六上)「天之爲行、不奪人所欲爲也。地之爲行、亦不奪人所欲爲也。明君之爲行、亦樂象天地、不奪人所爲也」。

『禮記』曾子問(卷一九・三八六上)「記曰、君子不奪人之親」。

『漢書』東方朔傳・非有先生之論(二八七二)「上不變天性、下不奪人倫、則天地和洽、遠方懷之、故號聖王」。

○各從其類

『周易』乾(卷一・一五上)九五「聖人作而萬物睹、本乎天者親上、本乎地者親下、則各從其類也」。

○天意

『墨子』天志上「順天意者、兼相愛、交相利、必得賞。反天意者、別相惡、交相賊、必得罰」。

○天心

『尚書』商書・咸有一德(卷八・一二〇上)「克享天心、受天明命」。孔傳「享、當也」。

『太平經』卷三五(道藏一一〇一・二四・三八三中)「故古者上君以道服人、大得天心、其治若神」。『太平經』卷三六(道藏一一〇一・二四・三八八上)「上古所以無爲而治得道意、得天心意者、以其守本、不失三急」。『太平經鈔』(己部)卷六(道藏一一〇一・二四・三五〇上)

「上德之君、賢明者、不奪所欲、必得天下之心、欲承天意、以歸之天之行、不奪人所欲、地之行、不奪人所欲」。『太平經』卷九八(道藏一一〇一・二四・五一六中)「上德之君、其用心、必仁賢而明者、不奪人所欲、必得天下之心、欲承天意、以道歸之也」。

○九人

前出「無形委氣之神人・大神人・真人・仙人・大道人・聖人・賢人・民・奴婢」

○易治

『論語』八佾「喪與其易也寧戚」。注疏「包曰、易、和易也。言禮之本意、失於奢、不如儉喪、失於和易、不如哀戚。」集注「易、治也」。

『管子』明法「君臣之間明別、明別則易治也」。『韓非子』有度「君臣之間、明辨而易治」。

『太平經』卷九七(道藏一一〇一・二四・五一〇上)「天以至道爲行、地以至德爲家、共以生萬

物、無所匿無可私也。故古者聖人、象天地爲行、以至道要德、力教化愚人、使爲謹良、令易治」。

○合和

『禮記』樂記（卷三九·七〇〇下）「故樂者……所以合和父子君臣、附親萬民也」。

○迭相

『禮記』樂記（卷三七·六六四上）「五者皆亂、迭相陵、謂之慢」（『史記』樂書、正義「迭、互也。陵、越也。五聲並不和、則君臣上下互相陵越、所以謂之爲慢也」）。

○成生↓生成

※『藝文類聚』卷二三鑿誠·晉嵇紹贈石季倫詩「人生稟五常、中和爲至德。嗜欲雖不同、成生所不識」。

『老子』第八章「天之道、利而不害」。王弼注「動常生成之也」。

『老子』第三十九章「萬物得一以生」。河上公注「言萬物皆須道以生成也」。

※『周易』咸（卷四·八二上）「天地感而萬物化生」。『周易』繫辭上（卷七·一四九上）「生生之謂易」。韓康伯注「陰陽轉易、以成化生」。『周易』繫辭上（卷七·一四四上）「乾知大始、坤作成物」。※『周易』說卦傳（卷九·一八三上）「昔者、聖人之作易也、將以順性命之理、是以立天之道曰陰與陽、立地之道曰柔與剛」。正義「將以順性命之理者、本意將此易卦、以順從天地生成萬物性命之理也。其天地生成萬物之理、須在陰陽必備、是以造化關設之時、其立天之道、有二種之氣、曰成物之陰與施生之陽也」。

○元炁不和以下

前出「其無形委炁之神人、職在治元炁。大神人、職在治天。真人、職在治地。仙人、職在治四時。大道人、職在治五行。聖人、職在治陰陽。賢人、職在治文書、皆受語。凡人、職在治草木五穀。奴婢、職在治財貨。」

〔原文〕

得此九人、能消萬世帝王承負之災（二）。此九人、上極無（刑）〔形〕（三）、下極奴婢、各調一炁。故上士修道、先當食炁。是欲與元炁和合（三）。當茅室齋戒、不觀邪惡、日鍊其形、無奪其欲、能出入無間、上助仙真元炁天治也（四）。是爲神士、爲（五）天之吏也。無禁無止（六）、誠能就之、名（七）天士。簡閱善人、天大喜（八）、還爲人利也。夫得道去世（九）、雖不時（十）目下之用、而能和調（十一）陰陽炁、以利萬物（十二）。古者帝王祭天上諸神、爲此神吏也（十三）。凡聖皆有極、「上極」爲無形神人（十四）、下極爲奴婢。神（人）者（十五）、乘炁而行。故人有炁即有神、炁絕即神亡。皇天之明要證也。所以明救人君之治·得失之效。

〔校勘〕經…『太平經』卷四十二九天消先王災法、經「四行本末訣」…同卷四行本末訣

（二）得此九人、能消萬世帝王承負之災…經作「氣得則此九人俱守道、承負萬世先王之災、悉消去矣」。

（三）刑…經作「形」、從此改之。

（四）故上士修道至與元炁和合…經作「故上士將入道、先不食有形而食氣、是且與元氣合」。

（五）當茅室齋戒至上助仙真元炁天治也…經作「故當養置茅室中、使其齋戒、不睹邪惡、日鍊其形、毋奪其欲、能出無間、去上助仙真元氣天治也」。

（六）爲…經無「爲」字。

（七）無禁無止…經作「毋禁止」。

（八）名…經作「名爲」。

（九）喜…經作「喜之」。

（十）夫得道去世…經作「然此得道去者」。

（十一）時…經作「爲人」。

（十二）而能和調…經作「皆共調和」。

(十二) 以利萬物・經無此句、作「也」。

(十三) 古者帝王祭天上諸神爲此神吏也…經作「古者帝王祭天上神下食、此之謂也」。

(十四) 上極爲無形神人…原無「上極」、經「四行本末訣」作「上極爲委氣神人」、從此加二字。

(十五) 神人…經「四行本末訣」無「人」字、從此讀之。

〔訓讀〕

此の九人を得れば、能く萬世の帝王の承負の災を消す。此の九人、上極は無形、下極は奴婢、各おの一炁を調ぶ。故に上士の道を修むるは、先に當に炁を食すべし。是れ元炁と和合せんと欲す。當に茅室に齋戒し、邪惡を覩ず、日び其の形を鍊し、其の欲を奪うこと無く、能く無間に入出し、上に仙眞・元炁・天治を助くべきなり。是れを神士と爲し、天の吏と爲すなり。禁ずること無く止めること無く、誠に能く之を就せば、天士と名づく。善人を簡閲すれば、天大に喜び、還りて人の利を爲すなり。夫れ道を得て世を去り、時に目下の用とならずと雖も、而るに能く陰陽の炁を和調し、以て萬物を利す。古者帝王天上の諸神に祭り、此の神吏と爲すなり。

凡聖 皆な極有り、上極は無形の神人と爲し、下極を奴婢と爲す。神(人)なる者、炁に乗りて行く。故に人炁有れば即ち神有り、炁絶てば即ち神亡ぶ。皇天の明なる要證なり。所以に人君の治の得失の效を明救す。

〔譯〕

これら九種の人(の正しい働き)を得れば、萬世にわたる帝王の承負の災いを消滅できる。これらの九人は、上極は無形の神人、下極は奴婢にあたり、それぞれ一種類の氣を調律している。だから、上等の道士が修道するには、何より氣を服食することから始めるべきである。それは(無形の)元氣と調和し合一しようとすることである。(そのためには)茅菴のなかで齋戒し、邪惡なことを目にせず、日々身體を煉化するのだが、持ち前に沿わないようなことはせず、間隙の無いところに入入りするような自在さを得て、仙人・真人たちの職・元氣のはがらき・皇天の統治を助けるべきである。このようなものを「神士(神に仕えるもの)」とし、「天の吏」とするのである。(天性が恬澹であって)欲望を禁止することなくとも、そのようなことが成就できるものは、「天士(生まれながら神に仕えるもの)」と名付ける。(天士は)善人より選ばれ、天が大いにそれを喜び、還って(地上の)人々に利益をあたえる。おおよそ(そのような人々は)道を得て世を去ってしまい、その當時に實用的な役割をしないかもしれないが、(根本的なところで)陰陽の氣を調和させ、萬物に利益をあたえるのである。古代において、帝王は天上の諸神に祭りをあげ、それによって(陰陽を調和させる)神吏の役割を果たしたのである。

凡人から聖人にいたるまでみな極があり、上極は無形の神人となり、下極は奴婢である。(上極にある神人は元氣と合一した存在である。ならば)神とは、氣に乗って動くものである。だから(氣で成りたっている)人は、氣があれば神があり、氣が絶てば神が亡ぶのである。これは皇天が明らかにした重要な證據である。そこで人君の政治のやりかたと、その得失の効驗を明らかに教えたのである。

〔語注〕

○上士……食炁

『太平經』第一四五(道藏一一三九・二五・三一八下)『三洞珠囊』卷四所引)「問曰、上中下得道度世者、何食之乎。答曰、上第一者食風氣、第二者食藥味、第三者少食、裁通其腸胃」。

○茅室

『後漢書』班彪列傳第三〇上（一三三二）「扶風掾李育、經明行著、教授百人、客居杜陵茅室土階。京兆·扶風二郡更請、徒以家貧、數辭病去」。

○日鍊其形

『太平御覽』卷二九時序部·元日「周處『風土記』曰、元日造五辛盤。正月元日、五熏鍊形。注曰、五辛所以發五藏氣。『莊子』曰、春月、飲酒茹葱、以通五藏。又曰、乃有雞子五熏鍊形。（正且皆當生吞雞子一枚、謂之鍊形）」。

『抱朴子』內篇·辨問「得閉聰掩明、內視反聽、呼吸道引、長齋久潔、入室煉形、登山採藥、數息思神、斷穀清腸哉」。劉勰「滅惑論」（大正八·四九下『弘明集』卷八）「夫佛法練神、道教練形」。

○無奪其欲

『老子指歸』勇敢篇「天地之道、生殺之理、無去無就、無奪無與」。

○出入無間

『淮南子』精神訓「所謂真人者、性合于道也。……居而無容、處而無所、其動無形、其靜無體、存而若亡、生而若死、出入無間、役使鬼神」。

○神士

『周禮』春官宗伯（卷一七·二六七下）「凡以神士者無數、以其藝為之貴賤之等」。鄭玄注「以神士者、男巫之俊、有學問才知者。藝謂禮樂射御書數、高者為上士、次之為中士、又次之為下士」。同（卷二七·四二三下）四二四上「凡以神仕者、掌三辰之灋、以猶鬼神示之居、辨其名物。以冬日至致天神人鬼、以夏日至致地示物彪、以禴國之凶荒·民之札喪」。音義「彪、眉祕反。禴、胡對反。札側八反」。『周禮』春官神士職（『毛詩』卷一七·六〇八下）「以冬日至致天神人鬼、以夏日至致地祇物彪」。『周禮』（『春秋左氏傳』卷五四·九五上）「神士掌三辰之法」。

○天之吏

『尚書』夏書·胤征（卷七·一〇四上）「火炎崑岡、玉石俱焚。天吏逸德、烈于猛火」。孔傳「逸、過也」。『孟子』公孫丑上（注疏卷三·六五上）「無敵於天下者、天吏也。」注「天吏者、天使也。為政當為天所使」。

○無禁無止

『太平經』卷五五（道藏一一〇一·二四·四四一上）「道之可歸、亦不可禁、亦不可使、……猶若大木歸山、水流歸海、不可禁止也、天性使然」。卷九六（五〇六上）「水從下、不教其為、自然往也、不可禁止也」。

○天士

『史記』封禪書（一三九二）「乃拜（樂）大為五利將軍。居月餘、得四印、佩天士將軍·地士將軍·大通將軍·天道將軍印」。『漢書』李尋傳（三一八二）「宜急博求幽隱、拔擢天士、任以大職」。注「李奇曰、天士、知天道者也」。

『太平經』卷一一〇（道藏一一〇一·二四·五五二上）「故使德人上知天意、教民作法、無失天心、有養長大、使得為人、復知文理、行成德就、可上及天士、天上之事、功勞有差。德人主知地之事、令民依仰、重見恩施、不能以時報之」。

○簡閱善人

『尚書』湯誥（卷八·一一三下）「爾有善、朕弗敢蔽。罪當朕躬、弗敢自赦。惟簡在上帝之心」。孔傳「所以不蔽善人、不赦己罪、以其簡在天心故也」。正義「鄭玄注論語云、簡閱在天心。言天簡閱其善惡也」。

○得道去世

『真誥』運象篇（道藏一〇一六·二〇·五一五上）「南人告云、得道去世、或顯或隱」。

○不時

『太平經』卷七「雖不時相久」。

○和調↓調和

『管子』度地「天地和調、日有長久」。

『莊子』外篇·天運「一清一濁、陰陽調和」。『荀子』脩身篇「治氣養心之術、血氣剛強、則柔之以調和」。臣道「恭敬禮也、調和樂也」。

○以利萬物

『老子』第八章「上善若水、水善利萬物而不爭」。『禮記』經解（卷五〇·八四六上）「天子者、與天地參、故德配天地、兼利萬物」。

○天上諸神

『太平經』卷六（四八一中）「所以告真人者、天上諸神言、天下有樂善、欲稱天心者、獨有真人耳」。

『太平經』卷一（五八二中）「天上諸神皆言、是行尤善、但未知天意耳」。

『九轉流珠神仙九丹經』（道藏九五二·一九·四二八上）「坐知天地者言服丹華、須臾飛上、盡見天上諸神也」。『雲笈七籤』卷四八摩照法（道藏一〇三二·二二·三三八下）「行其道德法、則天上諸神仙皆來至」。『道藏』一〇六·二八·四一八下『上清明鑑要經』有同文。

○神吏

『太平經』（『後漢書』襄楷傳（一〇八四）注所引）「天上有常神聖要語、時下授人以言、用使神吏應氣而往來也。人衆得之謂神呪也」。

○神人者乘炁而行、有炁即有神、炁絕即神亡

※『莊子』逍遙遊「藐姑射之山、有神人居焉、肌膚若冰雪、淖約若處子。不食五穀、吸風飲露。乘雲氣、御飛龍、而遊乎四海之外。其神凝、使物不疵癘而年穀熟」。

『太平經』卷四二（二四·四〇三上）「今是委氣神人、迺與元氣合形並力、與四時五行共生、凡事人神者、皆受之於天氣。天氣者、受之於元氣。神者、乘氣而行。故人有氣則有神、有神則有氣、神去則氣絕、氣亡則神去、故無神亦死、無氣亦死」。

『玉清秘錄』（道藏一〇三二·二二·三八〇上『雲笈七籤』卷五五精神注所引）「神者、乃乘氣而行。氣者、神之輦也。精者、居其中也」。

『管子』心術下「氣者、身之充也」。『淮南子』原道訓「夫形者、生之舍也。氣者、生之充也。神者、生之制也」。『西昇經』（道藏六六六·一一·五〇三上）「我身、乃神之車也、神之舍也、神之主也。主人安靜、神即居之、躁動、神即去之」。『胎息經』（道藏一〇三二·二二·四

二五中『雲笈七籤』卷六〇）「氣入身來爲之生、神去離形爲之死。……神行即氣行、神住即氣住」。

○皇天之明要證也、所以明敕人君之治·得失之效

『太平經』卷四四（二四·四〇五中）「此者、純皇天之明要證也。所以嚴敕人君之治·得失之效也」。

九人	治
無形委炁之神人	元炁
大神人	天
真人	地
仙人	四時
大道人	五行
聖人	陰陽
賢人	文書
凡人	草木五穀
奴婢	財貨